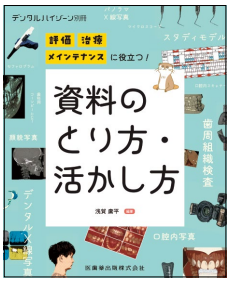
BOOKREVIEW

東京都大田区・サイトウ歯科
歯科医師 齋藤政一



資料採得のポイント，採得した資料の活かし方を押さえて，歯科衛生士の臨床に役立てよう！

月刊『デンタルハイジーン』別冊
評価・治療・メインテナンスに役立つ！
資料のとり方・活かし方
浅賀庸平 編著

AB 判／148 頁／定価 3,850 円（本体 3,500 円＋税 10%）／医歯薬出版（2023 年 12 月）

本別冊は歯科臨床に必要不可欠な口腔内写真，X 線写真，歯周組織検査などの資料の採得の仕方とその活かし方について，具体的にわかりやすくまとめられた 1 冊です．実際に著者の医院で使用している補助器具などの使い方も含めてくわしく紹介されており，「臨床現場で毎回正確に，確実に資料を採得したい」という著者の心意気がうかがえます．また，随所に「差がつくポイント！」として，さらに掘り下げたアドバイスが記載されています．

資料採得は歯科医療の根幹となる正確な診断のために重要であるだけではなく，歯周治療などの歯科衛生士業務にも必要不可欠であり，いつでも迅速に目的に応じた規格性のある資料を採得できるよう，訓練する必要があります．ここからは各 Part の内容を簡単に紹介します．

Part 1「資料採得をはじめよう！」では資料の種類や整理方法といった概要が紹介されています．

Part 2「しっかり押さえておきたい ベーシック編」では，顔貌写真・口腔内写真・X 線写真・歯周組織検査・スタディモデルについて，採得方法や評価法が詳細に説明されています．たとえば X 線写真の項目では，各治療における X 線写真での確認事項が症例をもとに示されています．特に，齲蝕や歯周病の各病態での読影すべきポイントや，治療前後における変化は歯科衛生士にとってたいへん参考になる内容です．歯周組織検査に関しては，ポイントが図や実際の写真とともにまとめられています．

Part 3「知っておきたい アドバンス編」では，現在普及が進んでいる歯科用コーンビーム CT（CBCT），口腔内スキャナー（IOS），セファログラム（頭部 X 線規格写真），マイクロスコープについても紹介されています．CBCT は，診断・治療計画の精度を大きく向上させる機材であり，その有効性を最大限に活かすポイントが丁寧にまとめられています．また，保険収載されて注目が集まっている口腔内スキャナーについても，「口腔内スキャナーとは何か」という基本的な説明から，実際の使用方法までが示されています．マイクロスコープは拡大して見るだけではなく，静止画・動画で口腔内の状態を患者さんに確認してもらうツールとして，著者が臨床現場でどのように使用しているかも紹介されています．

資料は診査・診断・治療の際に用いるだけでなく，歯周病などの慢性疾患を扱う歯科医療では，長期的な経過を残す重要な役割があります．著者の歯科医療に対する情熱がひしひしと伝わってくる本書は，歯科衛生士のみならず歯科医師・歯科技工士も含めた院内の全員で確認し合うために，診療室に 1 冊は置いておきたい貴重な指南書となるでしょう．